

新型卓上ウオッシャーディスプレイ フェクターを用いた洗浄力評価

大久保病院
堀井 直美 様

病院概要



- 199床（一般病床151床:地域包括ケア病床3床、緩和ケア病床18床、療養病床48床）
- 手術件数2013年：894件（整形外科817件）
- 手術室・中央材料室職員

看護師：8名

医師補助：1名

准看護師：4名

看護助手：3名

1. 背景・目的

- 一次洗浄の潜在的危険性に対する認識が高まり一次洗浄を廃止し、中央化が進んでいる。
- 手術件数中91.4%が整形外科手術であり、SSI防止に向け、器材の高い清浄度がより一層求められている。
- 今回、一次洗浄廃止に伴い、卓上ウオッシャーディスプレインフェクター（以下、WD）を導入した。
- 洗浄・滅菌の質向上を目的とし、洗浄機メーカー及び洗浄剤メーカー協力のもと、卓上WDを用いた各種洗浄評価を実施したので報告する。

【対象】

◆ 洗浄機: HOSIZAKI MWP-80UA2
(キヤノンライフケアソリューションズ)

◆ 洗浄プログラム:



		予備洗浄	本洗浄	すすぎ	熱水消毒
1	標準プログラム	45℃以下 1分	60℃ 7分	50~60℃ 1分×3回	80℃ 10分
2	強カプログラム	45℃以下 1分	60℃ 12分	50~60℃ 1分×3回	80℃ 10分

◆ 洗浄剤:

- ・WD-A® (キヤノンライフケアソリューションズ)
- ・アルフレッシュJ-1 (アムテック)

◆ 洗浄インジケータと設置場所:

- ・TOSI® (ニチオン)
- ・EVIT®、EVIT®-SP (アムテック)

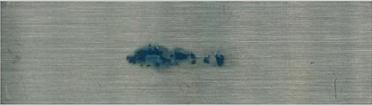


- : EVIT®-SP
- : EVIT®
- : TOSI®

2. 方法

1. 洗浄剤の違いによるソイル残存確認と蛋白質
残留測定による洗浄力評価
2. 洗浄プログラムの違いによるソイル残存確認
3. 洗浄剤投入量の違いによるソイル残存確認

結果1 洗浄剤の違いによるソイル残存確認と蛋白質残留測定結果

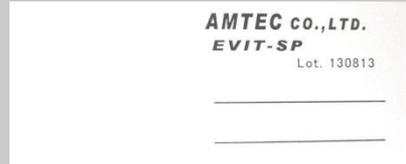
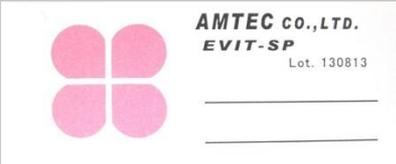
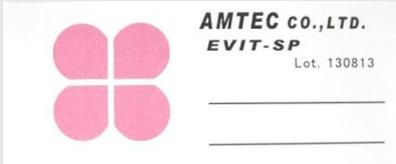
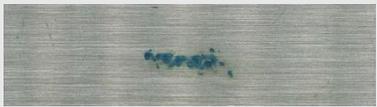
適用プログラム 適用洗浄剤 洗剤投入量		1:標準プログラム	
		WD-A®	アルフレッシュJ-1
		100% (約30ml)	
EVIT®	左手前		
	右奥		
EVIT®-SP	左手前		
	右奥		
TOSI®	左手前		
	右奥		
CBB測定結果 (N=5)		10μg/器材	12μg/器材

結果2 洗浄プログラムの違いによるソイル残存確認

適用プログラム 適用洗浄剤 洗剤投入量		1:標準プログラム	2:強力プログラム
		アルフレッシュJ-1	
		100% (約30ml)	
EVIT®	左手前		
	右奥		
EVIT®-SP	左手前		
	右奥		
TOSI®	左手前		
	右奥		

強力プログラムにおいて、EVIT®難除去ソイルの残存状態に変化が見られた。

結果3 洗剤投入量の違いによるソイル残存確認

適用プログラム 適用洗剤 洗剤投入量		1:標準プログラム		
		アルフレッシュJ-1		
		100% (約30ml)	50% (約15ml)	0% (0ml)
EVIT®	左手前			
	右奥			
EVIT®-SP	左手前			
	右奥			
TOSI®	左手前			
	右奥			

EVIT®・TOSI®において、洗剤投入量によって段階的にソイルの残存が認められた。

3. 結果

1. 2種洗剤による評価において、洗剤インジケータのソイル残存状態に差はあるものの、蛋白質残留測定では、いずれもJSMIが定める清浄度判定基準目標値を達成しており、同WDは良好な洗剤力発揮状態であることが確認された。
2. 洗剤プログラムの違いによる評価において、EVIT®難除去ソイル残存状態に変化が見られた。
3. 洗剤投入量の違いによる評価において、EVIT®とTOSI®は洗剤投入量によって段階的にソイル残存が認められたのに対し、EVIT®-SPは洗剤投入量0%においてソイル残存が認められた。

考察及び結語

卓上WDを導入したことにより、使用済み器材を停滞させることなく、スムーズに洗浄が実施できるようになり、業務の効率化に繋がった。

また、各種洗浄評価を実施したことにより、洗浄の質向上や質の管理に繋がった。